

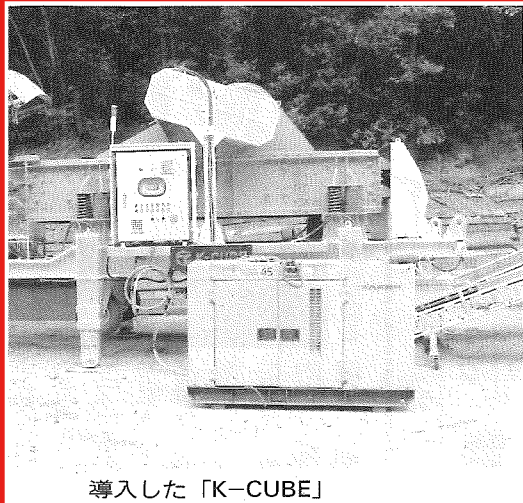
移動式ふるい機を導入

木チップの販路拡大へ

ワコー産業

再生砕石や建廃処理などに取り組むワコー産業(和歌山県印南町、山本雅弘社長、☎0738・45・0205)は昨年12月、木くずリサイクル事業に移動式振動ふるい機を導入した。破砕チップを選別することで高品質化するだけでなく、省人化も実現。従来の製紙ボイラー向けだけでなく、木質バイオマス発電所向けなどにも販売先を拡大し、月間1000トの出荷を目指す。

導入したのは、近畿工業(神戸市)製の移動式プラントユニット



導入した「K-CUBE」



選別後の木質チップ

「K-CUBE」(ケーキューブ)。顧客の要望に応じて、破砕機や選別機など二連の機器を現場に持ち込み、運転できる。今回は木くず破砕後の選別用として、振動ふるい機とベ

20リおよび40リコンテナに収納可能な形でユニット化し、トレーラーにそのまま連結して

ルトコンベアを備え、不整地でもバランスを取れるスタンドも追加したものとなっている。

同社の木くずリサイクル事業では、グループ建設会社の和興建設の工事に伴って発生する伐採木や、ダム整備事業での流木などをチップ化。主に製紙会社のボイラー燃料として販売してきた。しかし、関西エリアで木くずの滞留が問題化するなかで「チップの販売先を拡大するために、選別でチップの高品質化を

実際の処理では、移動式破砕機(処理能力21ト)とケーキューブを一連のラインとして設置。油圧シヨベルで木材を投入してチップ化のうえ、50ミのスクリーンでふるい選別する。アンダー材はパイク材として自社グループの農園や一般向けに肥料として、チップ

は燃料用に販売する。ケーキューブの導入以降は作業効率も向上し、現場の省人化も実現。チップの引き合いも強まっており、今後は製紙向けだけでなく、木質バイオマス発電所向けなどに販路を広げたい考えだ。

山本社長は「チップの高品質化の要望は以前からあったが、人材不足や安全確保の面から実現できなかった。ケーキューブの導入で、滞留する木くずの適正リサイクルに貢献していきたい」とした。

中央環境 石膏ボ再生

開

東南アジア

石膏ボードリサイクルの中央環境開発(横浜市金沢区、太田敏則社長、☎045・773・6030)は、再生石膏の供給先開拓の一環で、2020年度早々にも、東南アジアに再生原料を用いた「アッキ材」(プレアッキ)を生産工場を本稼働させる運びにあることを明らかにした。

勤安全や災害廃対策など

全国木材資源リサイクル協会連合会

新年度の事業計画など議論



理事長

認定NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会(東京・中央、藤枝慎治理事長)は、横浜市内で本年度第3回の理事会を開催し、新年度の事業計画案などについて審議した。藤枝理事長はあいさつに立ち、「木材の発生量が冷え込んでいる地域があるが安定供給、品質向上を協力して進めていく。今後、



外国人研修制度が廃棄物処理業界に導入される可能性もあり、労働安全についてもしっかりと

外国人研修制度が廃棄物処理業界に導入される可能性もあり、労働安全についてもしっかりと

外国人研修制度が廃棄物処理業界に導入される可能性もあり、労働安全についてもしっかりと

外国人研修制度が廃棄物処理業界に導入される可能性もあり、労働安全についてもしっかりと

外国人研修制度が廃棄物処理業界に導入される可能性もあり、労働安全についてもしっかりと